

4 滞在者等の安全確保に向けた行動計画

都市再生安全確保施設

- 本計画の目標・対応方針を踏まえ、**帰宅困難者一時滞在施設**を都市再生安全確保施設として位置づけ、帰宅困難者など滞在者等の安全確保の充実を図る。

滞在者等の安全確保に向けた取組

- 帰宅困難者対策などの地区内で共有すべきマニュアルとして策定した『**災害時行動ガイド**』を踏まえ、地区内関係者による**自助・共助**の取組を進める。『災害時行動ガイド』は随時、充実・更新を図る。
- 情報受伝達訓練・帰宅困難者受入訓練の実施、講演会・研修会の開催**などを推進する。

都市再生緊急整備地域における防災の確保

- 横浜都心・臨海地域の地域整備計画を踏まえ、隣接する横浜駅周辺地区と連携して、国内外からの来街者等に十分配慮しながら、**地域全体として、災害に強い『安全・安心』な街の形成を進める。**
- 本計画の推進により、横浜都心にふさわしい魅力とにぎわいのある都市空間の形成、地区の価値向上や**都市間競争力の向上、都市ブランドの形成**につなげることを目指す。

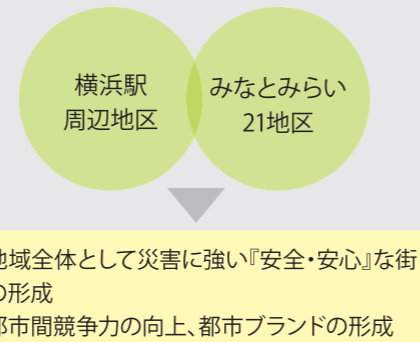
都市再生安全確保施設

- 帰宅困難者一時滞在施設の充実

滞在者等の安全確保に向けた取組

- 『災害時行動ガイド』を踏まえた**自助・共助**の取組
- 『災害時行動ガイド』の**充実・更新**
- **情報受伝達訓練・帰宅困難者受入訓練の実施**
- **講演会・研修会の開催** 等

都市再生緊急整備地域における防災の確保



都市再生安全確保計画図(帰宅困難者一時滞在施設)

1 はじめに

みなとみらい21地区の現状と課題

- 現状**
- みなとみらい21地区は、横浜市西区と中区にまたがり、横浜駅東口地区、中央地区、新港地区から構成される。
 - 街づくりの当初より防災性・耐震性に優れた都市基盤施設整備や建物整備など、**災害に強い街づくりが行われてきた結果、『安全・安心』な街として広く認められている。**
 - 平成28年の年間来街者数は約8,100万人、就業者数は約10万3千人となっている。ここ10年間で、来街者は約1.7倍、就業者は約1.8倍に増加しており、今後も来街者等は増え続けることが見込まれている。
- 課題**
- 引き続き、防災面でのエリアマネジメントを展開することにより、来街者等に対して『安全・安心』な街であり続けることが求められている。



2 滞在者等の安全確保に関する基本的方針

都市再生安全確保計画の対象区域

- 当地区のうち、横浜駅周辺地区として安全確保計画策定済みの区域を除く範囲を、本計画の対象区域とする(下の図の□の区域)。
- 横浜駅周辺地区と連携し、地域全体として『安全・安心』な街としての機能の向上を図る。



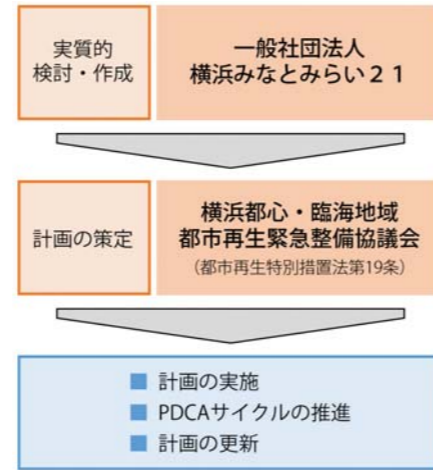
都市再生安全確保計画の対象区域

都市再生安全確保計画策定の意義

- これまでの検討・取組をとりまとめるとともに、関係者の連携を一層強化し、大規模地震時の滞在者等の安全確保に向けた取組を計画的に推進していく契機となる。
- 地区内関係者が備えている防災対策に関する高い意識・意欲をより高いレベルで発揮するためのツールとなる。

実施体制

- 都市再生安全確保計画の実質的な検討・作成については、一般社団法人横浜みなとみらい21が主体となって行い、計画の策定は「横浜都心・臨海地域都市再生緊急整備協議会」において行う。
- 計画の実施にあたっては、一般社団法人横浜みなとみらい21が中心となって、地区内の関係者が連携した一体的な取組を進めるとともに、取組状況の検証等を行うPDCAサイクルを推進しながら、適宜計画更新の検討を進める。



3 被害想定と計画の目標等

被害想定

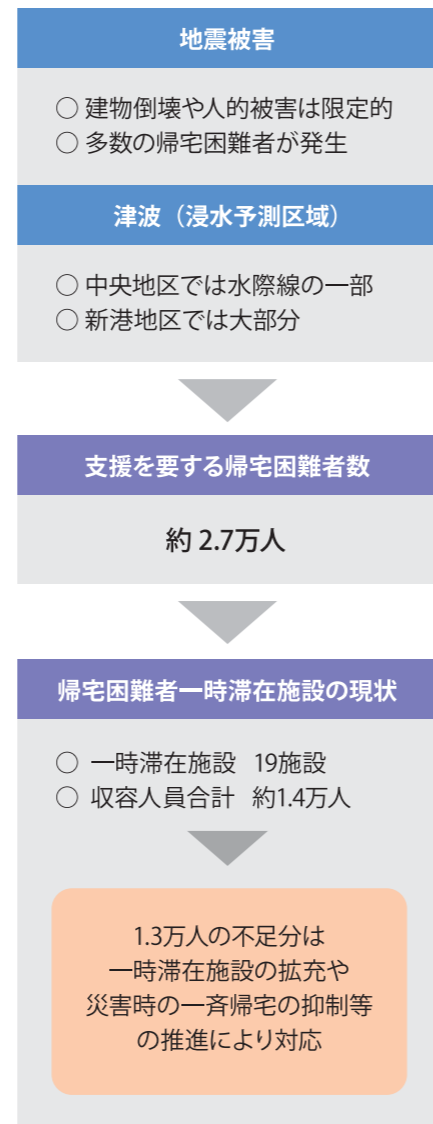
- 横浜市防災計画等を踏まえ、被害が最も大きい「元禄型関東地震」と津波被害の検討対象地震である「慶長型地震」を想定する。
- 防災性・耐震性に優れた都市基盤施設や建物特性から、大規模地震が発生しても建物倒壊や人的被害は限定的と考えられる。
- 一方、交通機関の停止等の影響により、帰宅できずに当地区に留まる多数の帰宅困難者の発生が懸念される。
- また、津波については、中央地区では水際線の一部、新港地区では大部分が浸水予測区域として想定されている。

帰宅困難者数の推定

- 東京都市圏パーソントリップ調査及びみなとみらい21地区来街者調査により、滞在者等の総数は、平日のピーク時で約10万人と推計される。このうち、自宅までの距離等により徒歩等での帰宅が困難な者は約4.2万人と推計される。
- さらに支援を要する帰宅困難者は、就業者の「災害時の一斉帰宅の抑制」についての現状における各事業所の取組み状況を踏まえ、約2.7万人と想定する(アンケート結果を踏まえ、就業者の50%が事業所に留まることを想定)。

帰宅困難者一時滞在施設の現状

- 地区内関係者が連携、協力して帰宅困難者を受け入れる当地区独自の仕組みとして、『帰宅困難者一時滞在施設登録制度』を創設した(平成28年12月)。
- 本制度の結果、登録施設は11施設となり、横浜市と個別に協定を締結して一時滞在施設として指定されている事業所も含めると、一時滞在施設は19施設、収容人員の合計は約1.4万人である(平成29年9月現在)。
- これは、本計画において想定している支援を要する帰宅困難者数約2.7万人に対して、52%であり約1.3万人不足する。これを解消するために、一時滞在施設の拡充や「災害時の一斉帰宅の抑制」等を一層推進することが求められる。



都市再生安全確保計画の目標及び対応方針

- 当地区は『安全・安心』な街としての特性から、大規模地震発生時の被害は限定的と考えられ、その後の就業者や来街者など滞在者等の混乱を最小限に抑えるための情報受伝達体制の強化や帰宅困難者対策等を重点的に進めることを、本計画の目標とする。

- 情報受伝達体制の強化** 連絡体制の構築・充実、情報受伝達訓練の実施、多様な情報受伝達手段の確保、情報拠点の体制強化など
- 帰宅困難者対策の推進** 『登録制度』の推進による一時滞在施設の施設数・収容人員の拡充、就業者の『一斉帰宅の抑制』の推進、一時滞在施設の運営体制の強化(平日に加え、休日、大規模イベント時の対応)など
- 津波対策の推進** 津波警報伝達システムを活用した避難訓練等の取組を横浜市と連携して推進など
- 都市機能の確保** 『災害時行動ガイド※』の充実・更新、外国人来街者等に配慮した情報提供機能の強化、災害に強い自立分散型エネルギーの導入など



災害時行動ガイド※

※ 帰宅困難者対策など災害時対応の基本事項を整理、地区内各施設の防災担当者が共有すべきマニュアルとして策定。

表 都市再生安全確保計画の目標と対応方針

目標	対応方針	
① 情報受伝達体制の強化	(ア) 連絡体制の構築と訓練の実施	各事業所の被害状況の把握及び施設管理者相互の情報共有等を図るための連絡体制を構築し、訓練等を通じて定着を図る。
	(イ) 多様な情報受伝達手段の確保と情報拠点の機能強化	情報受伝達機能の強化を図る。FAX、Eメールと併せ、新たな情報受伝達手段の導入を検討する。このうち、「会員用災害時掲示板」の機能の向上を図る。 情報拠点の運営要員の確保など体制の検討を進める。
② 帰宅困難者対策の推進	(ア) 一時滞在施設の確保に向けた『登録制度』の推進	帰宅困難者一時滞在施設の施設数、収容人員の拡充を進める。 街区開発の進捗を捉え、新たな事業者への働きかけを積極的に進める。
	(イ) 就業者の「一斉帰宅抑制」の推進	各事業所の就業者の「一斉帰宅抑制」を推進し、就業者が帰宅困難者となることを防止する。 各事業所における就業者用備蓄を促進する。
	(ウ) 一時滞在施設の運営体制の強化	施設の特性を踏まえた、受入要員の確保策の検討など、平日、休日それぞれの対応策を推進する。さらに、大規模イベント開催時の混乱防止策について関係者と連携して検討を進める。 帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設において十分な備蓄品を確保するために、スペースの確保、備蓄倉庫の整備などを推進する。
③ 津波対策の推進	(エ) 滞在者等への支援機能の強化等	滞在者等の混乱を防ぐための情報提供機能の強化として、マスコミ・放送局等との災害時協定等連携の推進やデジタルサイネージ等の新たな情報提供ツールの導入を推進する。 滞在者等が災害発生時に安心して行動できるよう基本的な注意事項と防災マップからなる『帰宅困難者支援ガイド』を更新・発行する。 滞在者等の安全を確保するため、建物・設備の安全点検、機能更新を促進する。
	(ア) 津波避難	建物の3階以上を目安に避難することとして、関係者間の連携をより強化した自助・共助の対応を進める。 津波避難情報板の周知や津波警報伝達システム等を活用した避難訓練等の取組を横浜市等と連携して進める。
④ 都市機能の確保	(ア) 『災害時行動ガイド』の更新発行	災害時の防災関係者が共有すべき当地区のスタンダードとして、情報受伝達体制の強化や帰宅困難者対策等についてとりまとめた『災害時行動ガイド』を充実・更新し、地区内での普及・定着を図る。
	(イ) 外国人への支援機能の強化	外国人の来街者が災害時に安心して行動できるよう、『外国人向けヘルプカード』の発行など、外国人への支援機能を強化する。
	(ウ) 地区としてのエネルギー供給体制の強化	DHCを基幹的エネルギーとしつつ、地区全体の防災性や環境性の向上に寄与するコージェネレーションシステムなど、災害に強い自立分散型エネルギーの導入を図る。